

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内にいつも掲示されている理念を唱和し、徹底するよう取り組んでいる。	毎年度のホームの目標は管理者とリーダー職が原案を考え職員会議で決めている。来訪者が訪れる玄関には法人の根幹となる理念や運営規程等を掲示しホームとしての方針を示している。管理者の思いは具体的に示され職員に浸透しているが、理念に反する言動等が見られたときは一呼吸置いて管理者が注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機会あるごとに地域の文化祭に参加して、作品出展や当日の参加で交流を図っている。常に地域のみなさんにあいさつを心がけ、そのためか近くの畑から花・野菜の差し入れがある。徒歩圏内に小学校があり、子供たちの訪問があったり、運動会やマラソン大会の応援での参加をしている。	自治会費を納めている。地区公民館長より文化祭のお誘いをいただく中で、1年を掛けプランに盛り込み、利用者がアクリルたわしや絵手紙、ちりめん細工等の作品を作り展示している。職員は文化祭の準備や後片付けに出かけ、地域住民との関わりもできている。ホーム横の道は毎年秋に行なわれる小学校のマラソン大会のコースで、利用者の応援は欠かせない行事の一つになっている。ホームのおたよりは季刊紙で、家族等の方々に楽しんでいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアグループや他事業所の見学訪問を受けて、施設見学をして頂きながら認知症の方への対応を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	広報の紹介などで現在の施設の姿を紹介し、質問・ご意見を頂き、実際の現場へ落としこんでいる。	家族代表、区長、民生委員、地区福祉委員長、地域包括支援センター職員等の参加をいただき定期的に開催し、ホームの現状報告や予定を伝え双方の話し合いをしている。また会議を通し、区長より小学校との交流を繋いでいただいた。次回開催日の日時は会議終了時に決め委員の予定の調整をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の市町村のケアマネ連絡会へ参加し、町の担当者との連絡・協力体制を強くもっている。	町担当部署とは運営推進会議等を通し良好な関係作りができており、諸々の相談に乗っていただいている。介護認定の更新の調査はホームで行い家族等が立ち会うこともあり、利用者の実情やケアサービスの取り組みなどについて職員から情報提供が行なわれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアスタッフとしての自覚と誇りを持って、身体拘束はしていない。	帰宅願望のある利用者の思いに寄り添い、利用者自身がホームに居ることを納得していただけるように支援に努めている。職員研修の一つとして「身体拘束ゼロ宣言」のDVDを回覧している。	

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳を大切に、身体的・精神的虐待の防止のカンファレンスを積み重ねている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・講演会へ積極的に参加し、必要な支援ができるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと安心して頂ける雰囲気の中で説明と質問の時間をとり、グループホームの理解と受け止めをして頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常より馴染みの関係を大切にすることを心掛け、ご家族様からの小さな一言も記録・共有して運営に活かしている。	職員は家族の来訪時に声掛けや言葉を交わし相互理解に努め、利用者や家族の思いに近づけるよう心掛けている。毎週木曜日の「活動の日」には、その日担当の職員と利用者で何をするか、したいかを決め様々な内容で実現している。家族会は年2回予定し、秋の家族会は利用者が「笠踊り」や「太極拳」を披露する会となっている。今年の家族会には窓拭き掃除をしていただき、その後食事会をしたという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会とユニット会で職員からの意見・提案を話し合い、運営に反映している。	職員会議やユニット会議はフラットな関係で様々な意見が交わされている。出された意見はホームの運営に取り上げられ、実行されている。職員の目標管理シートは3ヶ月で見直しがされ、管理者との面接を受け目標の振り返りと共に意見や提案がホームの運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員にこまめに声をかけるよう努めている。また、昼休みの確保など、働きやすい職場環境をつくるために、職員と話し合っ、業務改善を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・施設内の研修に参加しやすい、また前向きに受けていく機会の確保をすることで技術と知識の向上に取り組んでいる。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のケアマネ連絡会での情報交換や相互に施設見学を行って、他施設に学ばせて頂いている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に関する情報を収集するほか、日常の地道なケアを誠実に積み重ねながら、信頼感関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの流れの時間から入居初期特にご家族等の言葉を丁寧に伺い、不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、その利用者様にとって一番に必要な支援は何か、職員間の情報交換を密にして見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と目線を合わせ、本人の持てる能力に応じて役割を分担していただきながらともに生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を共有し、協力しあう事で、共に利用者様を支えていけるパートナーとしての関係づくりに努めている。希望を伺いご家族等とご利用者の外出への支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人・家族などなじみの方々が多数訪れてくださるので、訪問しやすい環境、居心地の良い環境作りに努めている。	利用前の近所の知人を家族等が連れてきたり、知人から手紙が来る方もいる。電話や手紙の支援については電話の場合、家族などから了解を得ている方に電話を掛けていただいている。ホームを利用してから新しい人間関係もでき、落ち着いた暮らしが営まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う利用者様同士が関わりの時間を持てるよう、両棟の行き来が自由にできるように配慮している。また、利用者間の関係を考慮して、席の位置を決めている。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	立ち寄りやすい、雰囲気作りと行事への誘いをおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動の中から、本人の希望や想いを把握できるよう、カンファレンスなどで職員間の情報交換をし、共有している。	全利用者がほぼ思いを表出できる。職員は利用者の思いの実現にむけ行動力とアイデアで対応している。楽しみにしていた「ほたる祭り」に行けなかった利用者のために提灯の絵を飾り、お昼は屋台をイメージした焼きソバを用意し、ホーム内で「行ってみたい」というシーンを再現した。色々なツールを使うと時間がかかるため、即決の思いを大切に職員が支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家人より聞き取った情報を個人ファイルに綴り、全職員で共有している。またそれぞれのご利用者に担当職員がおり、好きな趣味活動の継続的な関わりを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランにそって介護記録をつけ、カンファレンスを通して利用者様の現状を総合的につかんでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人意向を担当職員が掴み、ご家族の言葉も大切にしながらケアプランに生かしている。	利用者の担当制をとり、記録は担当職員がつけている。介護計画の見直しは3ヶ月に一度行ない、状態に変化が見られた時には随時の変更をしている。変更あり、なしに関わらず、家族等には3ヶ月ごとに計画を説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を丁寧に行い、日々変化する様子を伝えあい・共有出来ている。その時々状態に対応できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関わり・一緒に過ごす事を優先させることで、希望や思いを読み取り、サービスに生かしている。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	紙芝居 笠踊り 太極拳 傾聴など定期的に関わっているボランティアは地域の方たちで、訪問して頂くと普段とはまた違った笑顔や意欲的な活動を自然にされており地域の力を有効に取り込めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と連絡体制を取りながら、家族との連携で医療が円滑に繋がれるよう支援している。	ホームへの往診が月2回あるので利用者の半数がかかりつけ医を変更した。定期受診は基本的に家族に付き添いをお願いしているが、受診時には利用者の情報を記載したものを持参していただいている。医師からも受診結果が届き、職員間で共有しケアに活かしている。歯科治療の往診と同じ法人の老人福祉施設より週1回の訪問看護もあり、安心の医療体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、定期的に同じ法人の老人福祉施設のナースが来設し、利用者様の健康管理を行っている。利用者様の情報を共有し、相談しつつ適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は時々訪問して本人の状態を見ながら、病院のソーシャルワーカーと密に連絡をとり、治療の方針や退院の時期について、話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態の変化に合わせ、必要時は医師・担当ナース・ケアマネ・本人・家族で話し合い、今後の方針を決めている。	ホームでは看取りを経験している。利用開始時には「重要事項説明書」に記載の「重度化した場合における対応に係る指針」で看取りに関する考え方、指針、医師や医療機関との連携体制などを家族等に説明している。看取り時には1人～2人の家族等に泊り込みで付き添っていただいたりもする。また、看取りの際には医師直通の電話番号、看護師の電話番号を貼りだし対応したという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域消防署へ講師依頼をしての救命訓練やAEDや救命の人形を使った自主訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害を想定した避難誘導訓練や地震対応の訓練を行っている。地域の防災訓練の情報を頂ける体制がある。	年間計画で年3回の防災訓練を消防署員参加のもと行っている。地震、夜間、火災に対応した訓練を行い、実際に利用者の方々にも避難していただいた。地震の連絡網は法人と職員へ流れる2ルートを設定している。隣接の同じ法人の老人福祉施設の応援も望めるため強固な連携体制がとられている。食料品と介護用品の備蓄も準備されている。	

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心を温める一言を理念に掲げて、人格を尊重した言葉かけを心がけている。	利用者や家族等の意見を反映し、基本は苗字にさんを付けて呼んでいる。職員は100項目からなる「接遇チェックリスト」を半期に一度自己評価し管理者に提出している。今年度、法人のグループホーム全体の総合目標の一つである「介護は心」を職員が実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	離床の時間 就寝の時間の決まりは無く、眠くなるまでゆっくりテレビを見たり、おしゃべりをして過ごしている。朝遅く起きた方には起きた時間に朝食を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	庭のサッシは常に開放しており、自由に戸外へ出たり、ホールにも簡易ベットがあり自由に日中も使用して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性にはひげをそるよう声をかけをしたり、そり残しがあれば、お手伝いしている。着衣も声かけで、好みの服を選んでもらう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ・盛り付け・片付けをできる利用者様が分担して職員と一緒にやるなど希望で、台所作業を楽しんで頂いている。	自力で食事が出来る利用者が三分の二近くおられ、見守りと一部介助の方が三分の一ほどになる。食事形態も一口大やおかゆの方もいてそれぞれに対応している。献立は利用者の希望を聞き臨機応変に作り、食べたいものや季節のもの、家族やホーム前の畑の方からいただいた野菜などが直ぐ食卓に上る。食事は職員と利用者が一緒に食べ、「きょうの味付けはいいね」などと、和やかな会話の飛び交う食事の光景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつでも水分補給ができるようカウンターにポットに入れた麦茶を常備している。また、食形態やお茶ゼリーなどで個々の体調に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食後に声掛けをし、ひとりひとりに合わせた関わりでの口腔ケアを行っている。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声かけや、トイレ誘導でおむつの使用を減らすように努めている。	一部介助が半数強、自立の方、布パンツ使用等と様々であるが、排泄パターンを職員が把握しているので声掛けや利用者のしぐさを判断してさりげなく誘導を行っている。使用するパット等の形態が変わるときには随時家族等に相談し変更している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、食材や水分摂取を工夫している。排便チェックを行い、早めにナースに相談し、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴を楽しんで頂いている。回数は希望や時間にこだわりのある方は個別に対応している。	利用前から入浴が困難な状態であった利用者もいるが、職員との関係性がしっかり取れているためできる支援は何かを考え試みている。夏場の対応策としてシャワー浴等の支援もされている。近くの高原や諏訪湖畔の足湯にも出かけ楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の希望は丁寧に対応している。それぞれの方の気持ち良いや安心を読み取れるよう気配り目配りを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法・用量・副作用については理解している。確実に飲めるよう服薬管理には細心の注意をはらっている。医師・担当ナースとの連携もとれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好みを考えて、草むしり、野菜作り、調理や、気分転換のドライブも兼ねて食材の買い物について行っていただき、それぞれに感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や美術館へ、また白鳥の飛来などのニュースで諏訪湖畔の足湯へ出かけたたりと気軽に外出している。	ホーム前の広い駐車場に白い椅子が置かれていたり、隣の畑には持ち主の方に了解を得てベンチが置かれたりと、気分転換の散歩での一休みの場所を作り、外出しやすいように工夫がされている。ボランティアセンターで「ご長寿たわし」の名前で利用者の作品を販売しており、納品時には利用者や職員が出かけ楽しみの外出となっている。	

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問店などの機会にお財布を持つなど機会を増やしていく工夫を検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人に電話したいというご希望があれば、電話をかける支援をしています。また暑中見舞いや年賀状など大切な方へ出す機会を持っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に花が飾られ、清潔と心地よさに気を配っている。暖かい雰囲気作りには自信がある。	居間兼食堂の共用部分に沿い移動がしやすいように利用者の居室が配置されている。天井高の広いスペースで使い勝手の良いキッチンコーナーとの間仕切りもほとんどないため、より広い空間になり閉塞感はずっと感じられない。庭に面した大きな掃出し窓からは落ち着いた色調の同じ法人の老人福祉施設の建物が望め、床暖と空調設備もあり、ゆったりと過ごされている利用者が見受けられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	景観の良い窓辺やウッドデッキにいつでもゆっくりと過ごせるよう椅子が用意されている。ソファに清潔なブランケット・クッションを常備して、気持ち良い場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人と相談し、居室には馴染みのある家具を持ってきていただいている。	それぞれ利用者の居室には思い思いにベットが配置され、持込まれた家具の上には家族の写真や思い出の品物が置かれていた。居室には花の名前のプレートが付いているが、手書きの利用者の名前が付いた居室もあり職員の配慮が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を横出しする事で、遠くからでもわかりやすくなり、居室の入り口に目立つ目印をつけて、迷わない工夫をしている。		